



教科等横断型教材の開発 小学校第5学年

家庭科・国語科

<研究単位>

家庭科:開隆堂

「食べて元気に」

国語科:教育出版

「提案文を書こう」

研究の目的

小学校家庭科と国語科において、言語活動の充実の視点から、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に役立つ横断型教材を開発し、それらを活用して研修を実施する。

研究の方法

1 年次 小学校家庭科と国語科のカリキュラムを分析して、教科等横断型学習に最適な単元を検討し、教材を開発する。
2 年次 課題別研修等で活用し、改善を図る。

<目指す子どもの姿>

【家庭】日本の伝統的な食文化や栄養のバランス等、学んだことを生かして、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が育っている

【国語】自分の考えが伝わるように、構成や書き表し方を工夫することができる

【共通】課題を発見し、それを解決する方法を考え、実践し、振り返り、共有することで、学びが深まる

<教科横断型学習問題>

学びを生かして、給食献立「みそしる」を工夫し、伝わりやすい提案文を書こう

1 学習の見通しを持とう (0.5時間) (個人→ペア→全体)

○毎日の食事を見つめよう

・給食献立(写真)から気が付くことや食品について話し合う

2 ご飯とみそしるは食事の基本 (5.5時間)

①日本の食文化について知ろう (全体・グループ・個人)

・米、みそ、だしの役割

②③ご飯をたいてみよう

・計画、実習、観察・記録、まとめて共有する

④⑤みそしるを作ってみよう

・計画、実習、観察・記録、まとめて共有する

⑥実習を振り返ろう(栄養教諭のお話)

・個人で振り返り→グループで振り返り→まとめる

・実習での気づきや日本の伝統的な食事の良さをまとめる



3 食事の役割と栄養バランスを考えよう (2時間)

①②栄養素の主な働きを知ろう (全体・ペア)

・五大栄養素 3つのグループ

・給食に使われている食品を3つのグループに分けてみる

・栄養教諭:給食献立「みそしる」への見通しを確認する

4 給食献立「みそしる」を考えよう (2時間) (ペア・個人)

家庭科:日常の食事に生かそう

①②「みそしる」の実を考えよう(主食、主菜は指定)

・1食分の献立のうち、不足する食品グループを確認する

・食品調べをする(季節や行事、地域食材、彩り、香り等)

・栄養のバランスを考え、工夫し、各自で3つの実を決める

・実の組合せについて、選んだ理由をまとめる <個人案>

5 学習の見通しを持とう (1時間) (全体)

①提案文の書き方を確かめよう

6 提案したいことが伝わるように、提案文を書こう (4時間)

①～④書こう

・提案文の構成を考え、書く (個人)

・読み合い、感想等を伝え合う (交流)

・推敲する (個人)

7 伝え合おう (1時間) (グループ)

①提案文を読み合い、感想を伝え合おう

・分かりやすいところを伝え合う

・自分の文章の良いところを見つける

・各グループで、一つ選ぶ <グループ案>

振り返り【国語科】

(個人)

・書く活動について振り返る

8 給食献立「みそしる」を選ぼう (1時間)

①クラス案を決定しよう (全体・個人)

・グループごとに発表する

・個人で一つ選び、その理由をまとめる

・クラスで話し合い、一つ選ぶ <クラス案>

・栄養教諭:各提案文への講評を行う

振り返り【家庭科】

(個人)

・食品のグループ分けと工夫点を生かした「みそしる」について振り返る

研究の成果

・家庭科での学びを生かしながら課題に取り組み、その成果をまとめて相手に伝える時間として、国語科へと教科を置き換えるマネジメントを実施し、家庭科11時間、国語科6時間、計17時間で計画することができた。
・国語科との連携を図ることで、家庭科の課題解決学習における思考・判断した成果(意思決定や工夫点等)について、その根拠や提案理由を明確にすることができ、表現する活動が充実する。
・家庭科との連携を図ることで、必然性のある学習課題を設定することができ、国語科の書く活動が充実する。
・給食献立の実現等、学びの成果を可視化することで、達成感や次の学習意欲へとつなげることが期待できる。